

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた  
感染症対策に関するワーキンググループ(第4回)

議事概要

1. 日 時：令和2年2月7日(金) 14:00~15:00
2. 場 所：中央合同庁舎第4号館4階共用第4特別会議室
3. 出席者：

橋本 聖子 東京オリンピック・パラリンピック担当大臣  
河村 直樹 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部  
事務局企画・推進統括官

【座長】

山本 要 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部  
事務局参事官

【構成員】

野田 博之 内閣官房国際感染症対策調整室企画官 ※代理出席  
青山 彩子 警察庁長官官房給与厚生課長  
足達 雅英 総務省自治行政局地域力創造グループ地域政策課長  
小谷 聡司 消防庁消防・救急課救急企画室救急専門官 ※代理出席  
木村 久義 出入国在留管理庁出入国管理部出入国管理課長  
多田 昌弘 外務省国際協力局政策課企画官 ※代理出席  
渡部 康人 財務省関税局総務課長  
勝又 正秀 スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課長  
井口 豪 厚生労働省健康局感染症対策推進官 ※代理出席  
岡崎 隆之 厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課HACCP企画推進室室長補佐  
※代理出席  
新川 俊一 農林水産省消費・安全局食品安全政策課食品安全危機管理官  
山木 陽介 農林水産省消費・安全局動物衛生課課長補佐 ※代理出席  
茂木 正 経済産業省大臣官房参事官  
奈良 裕信 国土交通省総合政策局安心生活政策課長  
北川 功 観光庁国際観光課MICE連携推進官 ※代理出席  
名越 究 防衛省人事教育局衛生官  
原 陽一郎 東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画推進部運営課長  
鎌水 博哉 東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画推進部セキュリティ  
担当課長  
永淵 恒幸 東京都福祉保健局健康安全部食品監視課食品危機管理担当課長 ※代理出席  
宮本 哲也 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大会  
運営局医療サービス部長

【オブザーバー】

岩上 祐子 公益財団法人日本オリンピック委員会総務部長

根本 光憲	公益財団法人日本スポーツ協会理事・事務局長
井田 朋宏	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会/日本パラリンピック委員会事務局長
柳下 和慶	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大会運営局選手村診療所課選手村医療担当課長

※上記のほか、競技会場所在道県・政令市が参加。

#### 4. 議事要旨

・冒頭、橋本東京オリンピック・パラリンピック担当大臣より挨拶。

##### 【橋本大臣】

本日はご多用のところ、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた感染症対策に関するワーキンググループ」にご出席いただき、感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症について、政府においては、内閣総理大臣を本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、政府をあげて万全の対応を取ることとしている。

また、開催都市である東京都及び組織委員会においても、それぞれ対策本部を設置し、安全・安心な大会運営に向け、必要な対策が講じられることと伺っている。こうした取組に敬意を表するとともに、東京都及び組織委員会におかれては、関係省庁、関係自治体、競技団体など、関係者とも密接に連携しながら対策の実施に当たっていただくようお願い申し上げます。

大会に向けて、テストイベントや合同練習等が行われる中、アスリート、関係団体、競技団体の方々が様々な不安な気持ちを持たれているとの話を伺っている。私自身、2010年バンクーバー大会での新型インフルエンザ、2016年リオデジャネイロ大会でのジカ熱の発生の際、団長という立場で、現場の選手に不安を与えてしまった苦い経験を持っている。

そうした過去大会において、正確な情報をスピーディーに得ることができず、苦労した経験を私なりに考え、一日も早くしっかりとした対策を講じていかなければならないと感じ、内閣官房オリパラ事務局及びスポーツ庁に競技団体からの受付窓口を設けることにより、政府と競技団体との間で情報共有し、競技団体の方々の不安を解消させるための仕組みを新たに設けたいと思っている。この仕組みの中で、競技団体の方々の相談をしっかりと受け止め、情報を提供するとともに、政府の最新の動きについてもプッシュ型でお伝えしていく。競技団体の方々や関係省庁の声も丁寧に聞きながら、政府と競技団体との連携の強化につながる取組を速やかに実施していきたい。

さらに、本日は、関係自治体の皆様にも広く参加をいただいております。新型コロナウイルス感染症対策に当たっては、今後とも国・自治体でしっかりと連携していきたいと思っているのでよろしくお願い申し上げます。

東京大会の成功に向けては、大会に出場するアスリートが最高のパフォーマンスを発揮するとともに、観客も安心して大会を観戦していただけるようにすることが、何よりも重要である。大会まで残された期間は限られているが、関係者一丸となって感染症対策に全力で取り組んでいくことを改めてお願い申し上げます。

- ・ 議事 1 について、内閣官房オリパラ事務局より、資料 1、資料 2 に基づき、説明。
- ・ 議事 1 について、組織委員会より、資料 2（別添）に基づき、説明。
- ・ 東京大会に向けた侵襲性髄膜炎菌感染症の対策について、厚生労働省及び組織委員会より説明。

#### 【厚生労働省】

侵襲性髄膜炎菌感染症は、容易には感染しない疾患であり、飲み物の回し飲みや感染者の唾液やしぶき等の飛沫に非常に濃厚な接触があった場合に感染のリスクがあると言われている。厚生労働省としては、既にこの疾患を全数報告疾患として、医療機関が診断した場合に速やかに報告を受ける体制を構築している。また、必要な情報を関係機関に周知するなど対策の徹底に努めている。

#### 【組織委員会】

侵襲性髄膜炎菌感染症は、一旦患者が発生した場合には、大きな事象となる可能性がある重要な疾患と認識している。大会関連施設等における発生状況については、早期に探知する仕組みを整えているところである。一旦患者が発生した場合には、迅速に専門医療機関につなぎ、治療を受けていただく体制を整えており、当局への届出の後、必要な調査等を実施していく。これにあわせ、発生予防など、その後の対応についても、十分な指導を受けながら迅速に対応してまいる。

- ・ 東京大会に向けた梅毒の対策について、厚生労働省より説明。

#### 【厚生労働省】

梅毒の患者数は、2010 年で 621 人であったが、2018 年には 7,000 人を超えるまでに増加した。2019 年は 52 週までの約 1 年間の患者数は 6,577 人と、前年より患者が減少している。梅毒は、感染しても無症状であるか、症状が軽いことが多く、感染者が治療を怠りやすいという特性がある。コンドームの適切な使用や早期発見、治るまで服薬を続けることが重要である。こうしたことを含め、梅毒に関する正しい知識等をしっかり周知した結果、患者の増加傾向に歯止めがかかったものと考えている。より効果的な施策を検討しつつ、引き続き、周知等に努めてまいる。

- ・ 議事 2 について、関係省庁等より、資料 3 に基づき、説明。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策の取組について、内閣官房オリパラ事務局より補足説明。

#### 【内閣官房オリパラ事務局】

今後、ホストタウンにおける交流事業等で、多く外国人の方の訪日が見込まれることを踏まえ、新型コロナウイルス感染症に関連した政府の取組等について、提供すること等を目的とした事務連絡を本日付で発出予定である。

- ・新型コロナウイルス感染症について、スポーツ庁、各統括団体より取組状況を報告。

### 【スポーツ庁】

競技団体の関係では、外務省の渡航情報について、中国湖北省の危険レベルが引き上げられたことを受け、1月24日にJOC、JPCに対して、1月28日に日本スポーツ協会に対して、特に東京大会に向けた強化活動の一環として国際競技大会に参加したりする際には、渡航情報に十分留意いただきたい旨の事務連絡を発出し、しっかりとした情報共有をしている。その後、2月1日から、上陸の申請日前の14日以内に中国湖北省に滞在歴がある者、中国湖北省において発行された中国旅券を所持する者の入国制限措置を講じた後、2月4日にその取扱いについて情報提供するとともに、既に国際大会への選手の派遣中止を行ったもの、今後、日本から中国へ参加する可能性のある大会としてどのようなものがあるか、中国からの参加の可能性のある日本国内の大会としてどのようなものがあるか、について、情報共有をお願いしている。

### 【JOC】

新型コロナウイルス感染症について、情報提供いただき感謝申し上げます。

今回、統括団体にお声がけいただき、私どもは最新の情報を得ることができたが、各競技団体においても、東京大会の出場権獲得がかかる大会や強化合宿等のために選手を中国や周辺の国々に派遣する問題、国際競技団体とともに日本国内で国際大会を主催する際に中国人を含めた外国人を受け入れる課題に直面する。既に、例えば、バレーボール協会から今年4月のテストイベントについての相談を受けている。各競技団体に対しても、本日のような情報提供をいただけるような場を設けていただきたい。

### 【JPC】

JPCとしても、JOC同様、JPC加盟の各団体に対して、引き続き、情報提供いただきたいと思う。

### 【日本スポーツ協会】

当協会としても、まずは2月16日から始まる「とやま・なんと国体」に向け、大会運営にまい進してまいる。これからの年度末に向けた各大会における対応についてもいただく情報を参考にしながら進めてまいりたい。

- ・橋本東京オリンピック・パラリンピック担当大臣からのコメント。

## 【橋本大臣】

新型コロナウイルス感染症に関する各省庁から取組の紹介をいただき、さらにしっかり強化をしていかなければならないと感じた。先ほど申し上げた新たに設ける受付窓口も活用しながら、しっかりと対応していきたい。今JOCからも指摘があったが、個別の競技団体への説明会についても来週には実施できるように調整して、早い段階で情報共有できるように努めたい。

- ・ 議事3について、東京都、組織委員会より、資料4に基づき、説明。
- ・ 橋本東京オリンピック・パラリンピック担当大臣より挨拶。

## 【橋本大臣】

本日の会議では、当初から予定されていた推進計画に基づく取組状況のフォローアップのほか、新型コロナウイルス感染症についての対応やラグビーワールドカップでの取組についても議題とさせていただいた。

世界中で感染が広がっている新型コロナウイルス感染症については、競技団体から、政府からの情報提供についての要望があった。本日、私から発表させていただいた、新たな取組を通じ、さらに政府と個別の競技団体の方々との情報連携を強化してまいりたいと思うので、ご理解、ご協力をお願いしたい。

大会本番まで残り半年を切る中で、大会の開催を心待ちにしている方々に不安感を与えることのないよう、それぞれの関係機関において、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期していただきたくよう、改めてお願い申し上げます。

また、推進計画のフォローアップに関し、関係機関の皆様のご協力の下、着実に取り組みが進んでいることを確認することができた。特に、風しん・麻しんに関する特別対策については、とりわけ多大なご協力をいただいております、感謝申し上げます。関係機関におかれましては、それぞれの予防接種対象者に対して、しっかりと働きかけを行っていただき、期日までに対応を完了していただくよう改めてお願い申し上げます。

また、本日は、関係自治体をはじめ、競技団体関係の方々にもご参加いただいた。先ほどは、競技団体との受付窓口を作らせていただく発表を行ったが、今後早急に打ち合わせを実施し、関係自治体とホストタウンにも連携強化を図れるような新たな取組をしていくことを考えて、早い段階で自治体の皆様にもお知らせを行うのでよろしくようお願い申し上げます。ラグビーワールドカップの知見も踏まえつつ、関係者一丸となって東京大会に向けた感染症対策をさらに進めて行くことを改めてお願い申し上げます。

- ・ 閉会